

旧約聖書講解シリーズ

ダニエル書

H・S・ペイズリー

THIS DANIEL  
BY HAROLD S. PAISLEY

# 目次

序文	10
分解	11

## 第一部 歴史 第一章～第六章

第一章	バビロン宮廷の四人のヘブル人	19
1	神の目的	19
2	王の目的	20
3	宦官の長の目的	21
4	捕虜たちの目的	23
第二章	ネブカデネザルの最初の夢	31
1	巨像	32

2 大きな山……………43

3 大いなる神……………45

4 高い位とすばらしい贈り物……………46

第三章 金の像と熱く燃える炉……………48

1 像の建造……………49

2 忠実な三人……………53

3 厳粛なゲヘナの描写……………61

第四章 ネブカデネザルの第二の夢……………65

1 王の布告……………68

2 偽りの平安……………70

3 不思議な夢とその解き明かし……………71

4 七年間の狂気……………75

5 驚くべき回心……………78

## 第五章

壁に書かれた指文字……………	81
1 王の宮殿の大宴会……………	84
2 宮殿の壁に現われた指先……………	88
3 王の心の動揺……………	89
4 王の前での忠実……………	91
5 王の約束の成就……………	97
6 宮殿内の敵……………	98
7 帝国の終結……………	101

## 第六章

獅子の穴の中のダニエル……………	102
1 預言者のすぐれた霊……………	108
2 敵のいまわしい陰謀……………	110
3 しもべの熱心な祈りの生活……………	113
4 王の不可解な行動……………	117

第二部 預言 第七章〜第十二章

5	獅子の異常な状態……………	119
6	訴えた者たちの処刑……………	121
7	高められた忠実な人……………	122

第七章 ダニエルが見た大きな獣の幻…………… 127

1	最初の夜の幻……………	128
2	二番目の夜の幻……………	130
3	三番目の夜の幻……………	133
4	四番目の夜の幻……………	136
5	真理を知ろうとするダニエル……………	138
6	詳細な解明……………	139

第八章 雄羊と雄やぎの幻…………… 145

## 第九章

1	メデイヤとペルシャ帝国の権力奪取……………	149
2	メデイヤより優勢であったペルシャ……………	150
3	ペルシャとメデイヤの侵略……………	151
4	ギリシャ軍の勝利……………	151
5	征服者アレキサンダーの活躍と死……………	153
6	四將軍によつて分割されたアレキサンダーの帝国……………	154
7	アンティオカス四世エピファネスの憎むべき行為……………	155
8	御使いの会話……………	156
9	アッシリヤ軍とイスラエルの破壊者……………	158
七十週……………		165
1	聖書の研究……………	166
2	預言者の願い求め……………	168
3	すばやく飛んで来た御使い……………	174
4	あらかじめ書き記された「七十週」の経歴……………	177

第十章 かいま見る天の情景……………

……………188

1 最後の幻の内容……………

……………188

2 老預言者の悲しみ……………

……………190

3 栄光の御使いの威厳……………

……………192

4 答えられない祈りの奥義……………

……………194

5 御使いの奉仕……………

……………199

第十一章 北と南の王たちの予告された歴史……………

……………202

1 アハシエロスからアレキサンダー大王まで……………

……………204

2 アレキサンダー大王からアンティオカス・エピファネスまで……………

……………205

3 アンティオカス・エピファネスから反キリストまで……………

……………211

4 反キリストからアッシリヤの王まで……………

……………215

第十二章 イスラエルの最終の救い……………

……………225





## 序文

ダニエルの預言は神の靈感によるみことばの一部であり、また聖書のうちの重要な預言の一部である。ダニエル書の中で主は、世界の未来、諸国の運命、イスラエルの立場、救い主イエス・キリストの栄光の御国などに関する重要な知識を与えている。この書の大部分は、一般の信者に見過みごされてきた。神の目的を靈的に理解することによって、喜びに満ちた興味尽きない聖書のこの個所を深く知ることは、今や緊急の命題となっている。

この預言を構成している十二の章の中のすばらしい教えと真理のいくつかを、やさしく説明することが、私たちの願いである。聖書のあらゆる個所のうちで、ダニエル書ほど、不信仰な者の手によって被害を受けた記事はないと言える。この書は、二千年以上も悪評を受け続けて来たのである。しかし、感謝すべきことに、それは依然として、主イエス・キリストと父なる神を愛するすべての人々によって受け入れられている。神は、過去・現在・未来の出来事に関するこの指導書を聖霊によって与えてくださった。この書を研究するにあたって、聖霊の助けを求めながら、注意深く熟読し、一つ一つの章の意味が私たちにとどくように心から祈ろう。そして、私たちの心と理解力を啓発していただく。

## 分解

最初に行なうことは、この書の簡単な分解である。この書はヘブル語とアラム語で書かれていて、二つの部分から成っている。最初の六つの章が第一区分であり、次の六つの章が第二区分である。第一章は序幕であり、第十二章は終幕である。この書の始まりでダニエルは、異教の困難な状況の中で、神を喜ばせようとする目的を心に抱く若者として、また終章での彼は、永遠の門口に立っている、少なくとも九十歳の老人として描かれている。これら六十年間に、ダニエルは一個人として献身的に主に仕え、あらゆる悪から聖別された全き歩みをなした。神は限りない恵みをもって、他のいかなる預言者に対してよりも、ダニエルの歩みや働きに関して、みこころを啓示することを喜ばれた。この最も困難な場所と危険な時代にあつてのダニエルの類例を見ない完璧なあかしは、この末の時代にあるすべての聖徒が見習うべき模範である。胸のすくような思いに満たされるのは、何と言つても、非難の的となるような信仰の失敗や衰退が、ダニエルのうちに全く見られないことにある。常に神を喜ばせる道を歩み、王に祝福を運び、御使いへの関心を呼び起こした彼は、世の終わりに臨んでいる私たちに利益をもたらず数少ない証人のひとりである。